

令和7年10月31日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

福島町議会議員 溝 部 幸 基

研修成果報告書

福島町議会議員研修条例第7条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修日時 令和7年10月9日(木)
午後1時30分～午後4時20分
- 2 研修先 北斗市総合文化センター かなで～る
- 3 研修目的 令和7年度渡島・檜山管内市町議会議員研修会
- 4 成 果 別紙のとおり

【研修会講演内容】

- (1) 「調査船が明らかにする道南沖スルメイカの来遊実態」について

北海道立総合研究機構 水産研究本部
函館水産試験場 調査研究部 研究職員 富山 嶺 氏

- (2) 「対話する議会・議員を目指して～「SOUNDカード」を活用した、住民との意見交換会、議員間討議～」について

青森大学 社会コミュニティ創生コース
教授 佐藤 淳 氏

(1) 調査船が明らかにする道南沖スルメイカの来遊実態

「スルメイカの来遊」を研修会の講演としたことについては、時宜にあったテーマと評価するが、説明された来遊実態と報道されている現実の漁獲状況の差異が大きく、来遊実態調査の難しさを確認するのみの結果となってしまったのではと思っている。実態を掌握されている漁連・水産庁関係者を講師とされるべきであったと思慮する。

実態として、7・8年ぶりの豊漁が続く状況で、漁獲可能量（TAC）に制限され出漁できない状況は、イカ釣りを主体とする機船漁業者は勿論、スルメ生産を主体とする、町内加工業者にとって死活問題となっていると想定される。最盛期から現況までの漁船数・加工業者の減少を考慮すると、この段階で思い切った対応をしなければ、町に永々と続いた「スルメの文化」が途絶えるのではと憂慮する。

漁獲可能量（TAC）への来遊状況の配慮、他魚種と違い、スルメイカは、1年魚であること等をしっかり説明し理解を得る対策を積極的に展開する必要性を強く指摘する。

(2) 対話する議会・議員を目指して～「SOUNDカード」を活用した、住民との意見交換会、議員間討議～

佐藤さんとの交流は長く、早大マニフェスト研究所との関わりから続き、福島町へも何度か来町されており、議会改革について意見交換する機会も多く有りました。2014年6月に佐藤さんから「善政競う時代、本県議会改革事情」（東奥 日報連載）へ「通年議会」についてのコメントの依頼があり「会期に制約されていた議会議員の活動が、実態に合ったものとなった。活発な活動によってメリットは無限に広がる。デメリットは無い。」と記載していただきましたし、別の機関誌で、「評価と検証が議会基本条例の実効性を担保する」の表題で「福島町議会の議会・議員評価の取り組み」を紹介していただいてもおります。

ガバナンス2022年10月号から6回にわたり「対話する議会・議員」をテーマに実践事例を紹介しながら、社会全体の変化が激しく未来予測が難しい状況で議会・議員が変化することで地域を変える議員の役割について具体的に提言されておりましたし、「SOUNDカード」についても、地方議会人（2025年2月号）で六日町議会の実践例を紹介されておりました。

S : Status (現状) ⇒ 現状認識の共有

O : Outcome (成果) ⇒ ビジョン、ありたい姿の創出

U : Understando (理解) ⇒ 課題の深堀り

N : NegativeCheck (確認) ⇒ 懸念事項の確認

D : Drive (運営) ⇒ 具体的アクションの決定

趣旨は理解するが、毎年開催している「町民と議員の懇談会」等の現況を考慮するとここまですることが妥当なのか、町民のみならず議員にとっても、今以上の負担となり難しいと苦慮しておりました。無理をせず、研修に参加した議員の反応を期待したいと思っております